

道徳的価値の内面的な自覚を深める

道徳の時間の指導の在り方に関する研究

—自分との対話を深める書く活動をとおして—

室根村立折壁小学校 教諭 大竹博行

I 研究目的

道徳の時間の目標は、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することである。道徳の時間では、特に道徳的価値を理解し、それを自分とのかかわり度とらえ、自分なりに発展させていくという三つの事柄を念頭において指導することが大切である。

しかし、児童の実態をみると、資料と自分とを重ね合わせ、意欲的に話し合いに取り組んでいるが、一般論として道徳的価値を理解していても、自分自身とのかかわり度とらえることが弱く、自らよりよい生き方を求めることへは必ずしもつながっていない現状がある。これは、児童に自分自身の考え方や行動の在り方を考えさせ、よりよく生きようとする自己の内面をみつめさせるような指導の手だてを十分に行ってこなかったためと考える。

このことを改善するために、児童の日常生活や全教育活動における様々な体験を生かして、自分との対話を深める書く活動をとおして、道徳的価値を自分自身とのかかわり度とらえ、よりよい生き方を目指して行動していくことが大切であることを実感させることが必要である。

そこで、この研究は、小学校道徳教育において、自分との対話を深める書く活動をとおして、道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方を明らかにし、道徳の時間の充実に役立てようとするものである。

II 研究仮説

道徳の時間において、児童の日常生活や全教育活動における様々な体験を生かして、自分との対話を深める書く活動を次のような流れで行えば、道徳的価値の内面的な自覚を深めることができるであろう。

- 1 自己の内面を省みて、自分の生き方や考え方を書く活動を行う。
- 2 書いたものを基に自分の考えと他の人の考えを比較し、よさを認め合う交流を行う。
- 3 よりよい生き方を目指すことについての自分の思いを書く活動を行う。

III 研究の内容と方法

- 1 研究の内容
 - (1) 道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する基本構想の立案
 - (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察
 - (3) 自分との対話を深める書く活動についての手だての試案の作成
 - (4) 指導実践

- (5) 実践結果の分析と考察
- (6) 道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する研究のまとめ

2 研究の方法

- (1) 文献法 (2) 質問紙法 (3) 指導実践

3 指導実践の対象

室根村立折壁小学校 第5学年 1学級 (男11名 女10名 計21名)

IV 研究結果の分析と考察

1 道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する基本構想

(1) 道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する基本的な考え方

道徳の時間の目標は、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することである。このうち、道徳的価値の自覚については、道徳的価値を理解し、それを自分とのかかわりでとらえ、自分なりに発展させていくという三つの事柄を押さえておく必要がある。これらのことが、道徳の時間に児童の内面的な自覚にかかわる心の変化として起こるようにすることが大切であると考え。児童の内面的な自覚にかかわる心の変化として、次の【表1】のような段階を考える。

【表1】児童の内面的な自覚にかかわる心の変化

段 階	意 味
心にかか	体験の振り返りや資料との出会いをとおして、児童の興味・関心が、資料やねらいとする道徳的価値に向けて高まる。
心がうごく	児童は、主人公の生き方や考え方、他の人の感じたことや考えたことと照らし合わせながら道徳的価値を理解し、人間理解・他者理解を深める。
心にひびく	道徳的価値を理解した児童は、それを自分とのかかわりでとらえることにより、今までの自分の生き方や考え方に気付き、自己理解を深める。
心を見つめる	自己理解を深めた児童は、自己の内面にあるよりよく生きようとする思いと結び付けることにより、今までの自分の道徳的価値についての考え方をみつめ直し、これからの自分の生き方や考え方をまとめ、自己発展・成長を目指す。

内面的な自覚とは、児童が道徳的価値に共感・感動し、それを児童の様々な体験と結び付けて考え、よりよく生きようとする身構えをもつことととらえる。内面的な自覚を深めるには、資料をとおしてねらいとする道徳的価値について、主人公の生き方や考え方と自分とを重ね合わせて、共感的に理解することが必要と考える。また、日常生活や全教育活動における様々な体験を自他のかかわりで結び付けて、自分にとって切実なこととして受け止めることが必要と考える。そして、自己の内面にあるよりよく生きようとする思いと結び付けて、道徳的価値についての自分なりの新たな考えを見いだすことが必要と考える。

そこで、本研究は、小学校道徳教育における道徳的価値の内面的な自覚が深まった児童の姿を「道徳的価値を自分の心の中に受け止め、よりよい生き方を目指そうとする思いをもつ児童」ととらえることとする。そして、道徳的価値の内面的な自覚の深まりの構成要素を【表2】のように考え、研究を進めるものとする。

【表2】道徳的価値の内面的な自覚の深まりの構成要素と児童の姿

構成要素	児童の姿
とらえる	道徳的価値について共感的に理解する。 ① 資料の主人公や他の人の気持ちや考え方 ② 今までの自分の生き方や考え方 ③ 道徳的価値の大切さ
結びつける	道徳的価値について自他とのかかわりで関係付ける。 ① 資料の主人公の生き方や考え方 ② 自分の体験 ③ 他の人の生き方や考え方
見いだす	道徳的価値について自分なりの新たな考えをもつ。 ① 道徳的価値についての感じ方や考え方 ② よりよい生き方や考え方 ③ 意志の表れや行動への構え

「とらえる」は、資料の主人公や他の人の気持ちや考え、今までの自分の生き方や考え方に気付くこと、道徳的価値の大切さを受け止めることをとおして、道徳的価値について共感的に理解しようとする意識である。「結びつける」は、資料の主人公や他の人の生き方や考え方、自分の体験を道徳的価値と結び付けようとする意識である。これらが、導入、展開、終末の各段階において、児童の内面的な自覚にかかわる心の変化として起こるように螺旋的にかかわっていくものとする。そして、児童のよりよい生き方を目指そうとする思いに結び付きながら、道徳的価値について自分なりの新たな考えを

もとうとする「見いだす」をはぐくんでいくと考える。

(2) 自分との対話を深める書く活動の意義

道徳の時間は、児童にとって、自分の心の中にあるよりよく生きようと思う心を確認して、それを発展させていくために自分をみつめたり、他の児童の考えと自分の考えを交わしたりする時間である。

児童の実態をみると、資料と自分とを重ね合わせ、意欲的に話し合いに取り組んでいるが、一般論として道徳的価値を理解していても、自分自身とのかかわりでとらえることが弱く、自らよりよい生き方を求めることへは必ずしもつながっていない現状がある。そこで、児童の日常生活や全教育活動における様々な体験を生かして、自分との対話を深める書く活動を行わせ、道徳的価値を自分や他の人とかかわりでとらえさせ、よりよい生き方を目指して行動する大切さを実感させる必要がある。

自分との対話とは、心の中にある道徳的価値を求めるもう一人の自分、つまり、よりよく生きようとする自己の内面から、自分をみつめ直すことととらえる。これを受けて、自分との対話を深めるとは、資料から学んだ道徳的価値と日常生活や全教育活動における様々な体験の中の今までの自分とを重ね合わせて、よりよく生きようとするこれからの自分を見いだすことととらえる。

書く活動は、自分の考えを確かめながら整理する活動である。また、自分の感じ方や考え方を文字にすることで、自分の心を自分でみることが出来る活動である。したがって、児童は、書く活動によって、道徳的価値を自分自身の考え方や行動の在り方とのかかわりでとらえ、自分をみつめ直して、これからの考え方や生き方について新たな決意をもつことができる。また、児童は、書いたものを基にして他の人と交流することによって、自分のよさや可能性、他の人のよさに気付いたとき、よりよい生き方を目指そうとする思いをもつと考える。

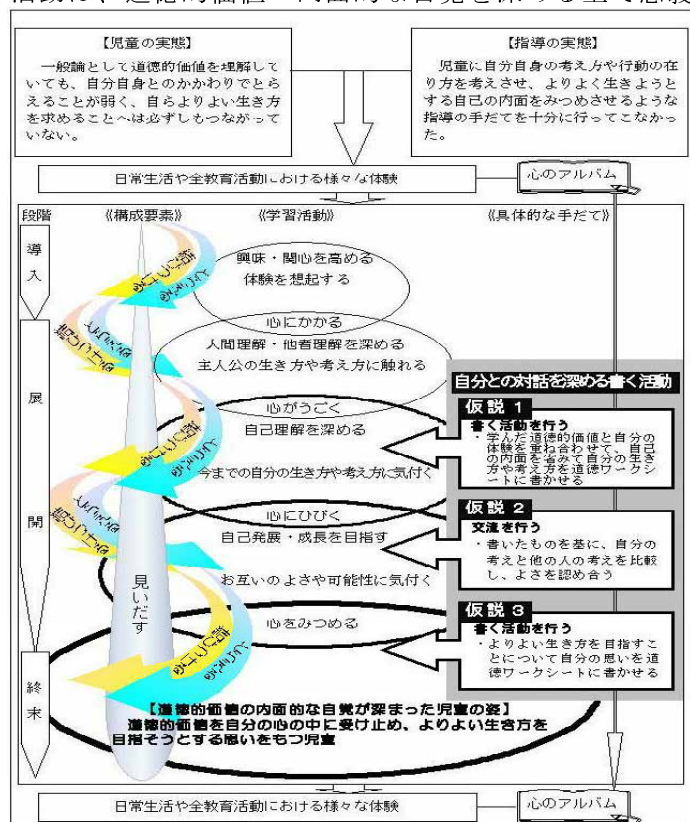
以上のことから、自分との対話を深める書く活動は、道徳的価値の内面的な自覚を深める上で意義あることと考える。

(3) 自分との対話を深める書く活動の内容と進め方

自分との対話を深める書く活動は、次のような内容を一連の流れで行う。

ア 心のアルバムの活用

児童は、日常生活や全教育活動において、様々な体験をしている。その中で、道徳的価値に触れ、感じたり、考えたりしている。このことを道徳の時間において、児童の心に働きかけ道徳的価値として気付かせるように生かすことが必要である。そこで、道徳の時間のねらいとかかわりのある日常生活や全教育活動における様々な体験を指導計画に位置付け、体験をとおして感じたことや考えたことを心のアルバムに書き蓄えることを行う。心のアルバムとは、文部科学省作成の「心のノート」や様々な体験で感じたことや考えたことを記録し、綴っておくものである。児童にとっては、自分の考え方の記録となり、振り返って自分の成長を実感することができるものになると考える。また、教師にとっては児童の考え方を把握し、



【図1】道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する基本構想図

また、教師にとっては児童の考え方を把握し、

意図的指名や個別指導に役立てることができるものになると考える。

導入では、体験を想起するとき心のアルバムを活用し、道徳的価値への方向付けを行い、児童の興味・関心を高めることができる。と考える。

展開では、発問の工夫や心のアルバムからとらえた児童の考え方を生かした意図的指名により、多様な価値観に基づく考えを引き出し、人間理解・他者理解を深めることができる。と考える。

イ 道徳ワークシートを活用して書く活動

学んだ道徳的価値と自分の体験を重ね合わせて、自己の内面を省みて道徳ワークシートに書くことによって、今までの自分の生き方や考え方に気付き、自己理解を深めることができる。と考える。

ウ よさや可能性を認め合う交流

自己の内面を省みて書いた道徳ワークシートを基にして、自分の考えと他の人の考えを比較し、よさに気付かせる交流である。多様な価値観や体験に基づく考えを交流し合うことで、お互いのよさや可能性に気付き、認め合うことで道徳的価値の内面的な自覚を深める効果が期待できる。

エ よりよい生き方を目指すことについて書く活動

交流によって気付いた自分のよさや可能性など、学んだことを明らかにするために、よりよい生き方を目指すことについて道徳ワークシートに書く活動を行う。このことによって、児童は、自分なりの新たな考えを見だし、自己発展・成長を目指すことができる。と考える。

(4) 道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する基本構想図

これまで述べてきたことから、基本構想図を前頁【図1】のように作成した。

- 2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察（本資料では省略）
- 3 自分との対話を深める書く活動についての手だての試案

(1) 手だての試案作成の観点

実態調査の結果から明らかになったことにより手だての試案の観点を次のようにまとめた。

- ア 今までの自分やこれからの自分について書くことができる道徳ワークシートを工夫する。また、書くときにどのように書くかを明確にするため、考える観点を示すこと。
- イ 道徳ワークシートに書いたことを基に発表し合う。また、一人一人が発表し合うために、生活班を利用した2～3人のペア交流とすること。
- ウ 自分の考えと他の人の考えの共通点や相違点を明確にさせるために、聞く観点を示すこと。

(2) 自分との対話を深める書く活動についての手だての試案

手だての試案を【図2】のように作成した。

(3) 検証計画

手だての試案の妥当性をみるために、検証計画を7頁【表3】のように作成した。また、児童の記述内容については、7頁【表4】の分析基準により分析し、意識の状況をとらえることにする。

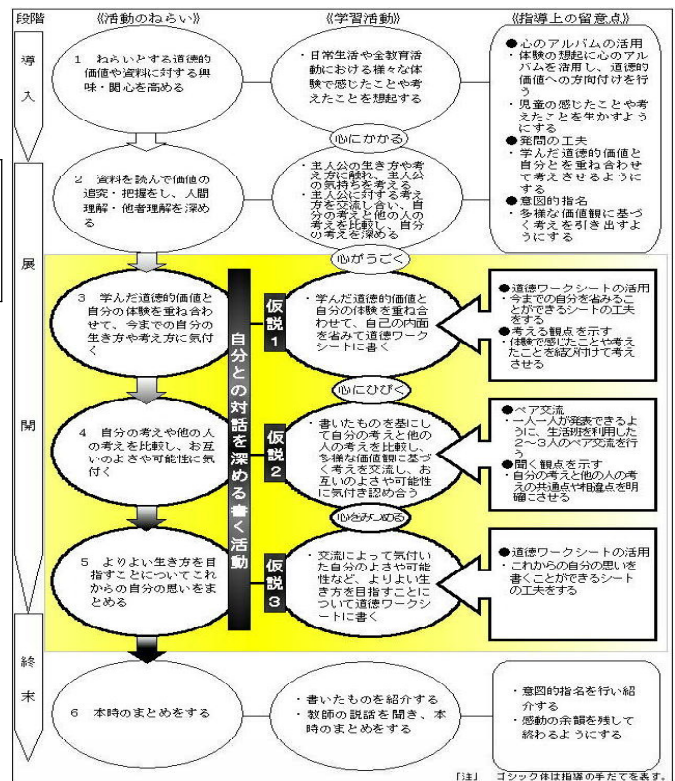
4 指導実践

(1) 手だての試案に基づく指導計画

(本資料では省略)

(2) 自分との対話を深める書く活動についての手だての試案に基づく指導実践の概要

手だての試案に基づき作成した指導展開案に従い、全3時間指導実践を行った。なお、次頁からの【資料1】【資料2】は、指導実践の概要である。



【図2】自分との対話を深める書く活動についての手だての試案

【資料1】心にひびく段階の指導実践の概要

第2時 資料「メジャーリーガー・イチロー」1-(2) 勇気、希望、不撓不屈

段階	学習活動(手だてにかかわる部分はゴシック体で表す) 児童の反応と様子 授業記録 児童の反応 教師の発問 見いだす
展	2. 資料を読んで価値の追究・把握をし、人間理解・他者理解を深める。 3. 学んだ道徳的価値と自分の体験を重ね合わせて、今までの自分の生き方や考え方に気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> T: 目標に向かってどのように取り組んでいたかを考えて書きましよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> T1: 一軍で活躍するようになったイチロー選手は、どんな気持ちだったでしょう。 C1: 今まで苦しかったけど、練習してきた成果があったな。 C2: 今までの苦労が無駄ではなかった。 C3: これを求めていたんだ。 C4: 頑張ればいい成績が残せるんだ。 T2: でも、ここで満足していたのかな。 C4: まだまだ次の目標を求めていたと思う。 C5: メジャーに行きたい。 T3: メジャーに挑戦しようと思ったイチロー選手は、どんな気持ちだったでしょう。 C6: 日本とメジャーの野球は違うからもっと練習をしなければ。 C7: 願いはかなったけど、ここで気をゆるめてはダメだ。 C8: 絶対にメジャーで活躍してみせる。 T4: このような気持ちがあったからなれたのでしょね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C2: 野球で初めて5年生でチームを作って試合をしたとき負けてしまったので、もっとうまくって強いチームにしたいと思って、みんな基本から練習して見事ベスト4に入った。やればできるんだと思った。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C1: 陸上練習でタイムを縮めようと頑張りました。休みの日には、会場の学校で走ってみました。そのときは頑張れそうだなと思いました。陸上記録会では自己ベストは出せたけど、最後に抜かれてくやしかった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C4: 野球の練習のとき、もっともっとまくなりたと思ったことがあった。補欠だったときに、練習を厳しくしたいと思ったし、総会ときにライトになると言ったので厳しく練習をしたし、目標が達成できないとくやしいので、燃えるように練習しました。 </div>
開	4. 自分の考えと他の人の考えを比較し、お互いのよさに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> T: 前後左右の人と発表し合います。次のことに気を付けて聞きましょう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> T: 友達の「そんなこと考えていたんだあ」というところを紹介して下さい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C7: ファーストとしての練習を頑張っている。一球もボールをはぐさないように頑張っている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C9: (C5で)長距離の練習で(目標の)3分が切れなから、土日にも走り込んでいたのですごいなと思いました。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C9: ソフトの練習試合のとき、私はピッチャーとして出たけど、疲れてくるとボールばかりになってしまい、打たれていないのに点が入ってしまった。そのときは、私のせいで点が入ってしまった、みんなに悪いと思った。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> C5: 陸上の長距離で3分が切れなくて、自分で土・日に走り込んだけど、やはり3分は切れなかった。まだまだ走り込みが少なかったのかと思った。選手にはなれなかったけど、練習ではタイムを伸ばすように努力した。 </div>

▼▼授業の様子▼▼

書く活動では、今までの自分の生き方や考え方をほとんどの子が書くことができた。ペア交流は、座席の前後左右でペアを作り発表し合った。2回目ということもあり、お互いの考えの発表にスムーズに移行することができた。しかし、発表し合う声がひびきあい、聞く側への配慮が必要であった。全体交流では、一人の発言から次々と手が挙がり、友達のよさに気付いたことが発表された。このことによって、心をつめる段階での新たな思いにつながったと考える。

【資料2】心をつめる段階の指導実践の概要

第3時 資料「牛乳配り」4-(4) 勤労・奉仕

段階	学習活動 (手だてにかかわる部分はゴシック体で表す) 児童の反応と様子	児童の反応	教師の発問	見いだす
展	<p>4. 自分の考えと他の人の考えを比較し、お互いのよさに気付かせる。</p> <p>T: 前後左右の人と発表し合います。次のことに気を付けて聞きましょう。</p> <p>〈聞く観点〉 ・似ているところ ・違ってるところ ・共感するところ</p> <p>T: 友達の「そんなことを考えていたんだあ」というところを紹介して下さい。</p>	<p>C1: 夜食を作っているときに、お母さんが買い忘れたものを頼まれて、「行きたくない」と言った。お母さんが買いに行ったとき、お母さんだけいろいろと忙しいのでやっぱりちゃんとやればよかった。</p> <p>仮説2 ペア交流</p> <p>C2: (お風呂掃除) 最初は面倒くさいなあと思ってたけど、やり終わるときれいになっていて、けっこうやりがいがあるなあと思った。</p> <p>C3: 学校から頼まれたやまびこをぼくは、ときどき面倒くさいときもあったけど、みんなやまびこを待っている人がいるんだと思って配ってきた。</p>		
開	<p>5. よりよい生き方を目指すことについて、これから自分の思いをまとめる。</p> <p>道徳ワークシートの記述内容より</p> <p>C1: 面倒くさくても、ちゃんとやるようにすると、やらないで後悔しないようにする。</p> <p>C2: 面倒くさいという気持ちをおさえて、最後まできちんとやりたい。</p> <p>C3: これからはやまびこを配ることを面倒くさがらないで、進んでやろう。</p> <p>C4: いやいややるんじゃなく、自分からやっていたらよくなると思う。それに、頼まれたときは、最後まできちんとやればいいと思う。</p> <p>C5: これからも頼まれたことをやったり、自分から進んで仕事などをやっていきたい。</p> <p>C6: これからは手伝いを頼まれたときとか、自分の役割があるときは、いやがらずに進んでやってほしいと思う。</p>	<p>C1: (C3と同じで) やまびこ (学区内全戸に配る校報) を配るとき、面倒くさいと思ったときもあったけど、やまびこを待っている人がいることを考えながら配っていて、それを読んでいるところを見ると、「配ってよかったなあ。」と思う。</p> <p>仮説3 書く活動</p> <p>T: これからの自分にとって大切なことと感じたことを書きましょう。</p> <p>道徳ワークシート</p>		
終末	<p>6. 本時のまとめをする。</p> <p>「心のノート」のp.85をBGMを聞きながら静かに読み、自分の心をつめる。</p>			

▼▼授業の様子▼▼

交流を行うことによって、お互いの考え方の共通点や相違点をとらえることができた。校報を配る体験を書いた児童C3の考え方を聞いた児童C1は、価値がもたらす喜びに共感したことが下線部より分かる。道徳ワークシートの記述内容は、勤労に対する意欲が表れていた。しかし、社会に奉仕する心構えまでには深めることができなかった。終末では、「心のノート」を活用して、本時の道徳的価値について確かめて終えるようにした。働く様子の写真や「自分もよい 相手もよい そして社会もよい」という言葉から、働くことについてみつめ直し、余韻を残して終わることができたと考えられる。

5 実践結果の分析と考察

(1) 道徳的価値の内面的な自覚の深まりの状況

ア 意識の状況について

「とらえる」と「結びつける」の状況について、授業記録の分析と考察を行った。

【資料1】【資料2】では、ペア交流をとおして、自分の考えにはなかったところをみつけた児童C9や児童C1の発言がみられた。これは、聞く観点を示したことにより、他の人の生き方や考え方とこれまでの自分の生き方や考え方を結び付け、似ているところや違っているところをみつけることができたこと、ペア交流により他の人の考え方が、自分にとっても必要なことであるととらえることができたためと考える。このことから「とらえる」と「結びつける」は有効だったと考える。しかし、ペア交流の傾向として、自分と他の人の考えの共通点と相違点をみつけることに終始してしまっただけで、更に深まりのある交流の仕方について課題が残った。

【図3】は、道徳ワークシートの記述内容から「とらえる」「結びつける」について、【表4】の分析基準によって判断したものをまとめたものである。次頁【表5】は、主な記述例をまとめたものである。

第1時では、「とらえる」に関して記述した児童7人、「結びつける」に関して記述した児童12人であった。そのうち、A段階が1人であった。どちらもB段階が多く、学んだ道徳的価値と照らし合わせて感じたことや考えたことを記述していた。これは、書く活動において「とらえる」についての考える観点が、児童にとって分かりにくかったためと考える。また、「結びつける」については、自分の体験を想起して自分の行動について書いていたが、行動からの考えや気持ちを書くまでに至っていない。これは、書く活動において考える観点を明確に提示できなかったため、児童が書く内容を十分にまとめられなかったと考える。

第2時では、「とらえる」に関して記述した児童11人、「結びつける」に関して記述した児童10人であった。そのうち、A段階が10人であった。これは、事前に「心のノート」や体験を振り返る心のアルバムを活用して、価値について考えるきっかけを設定したことにより、自分の体験と結び付けやすかったからと考える。また、心が

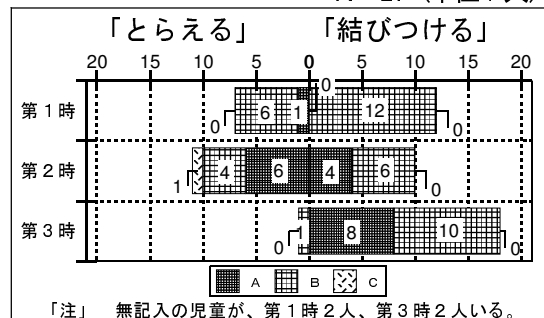
【表3】 検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理解釈の方法
道徳的価値の内面的な自覚の深まりの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・構成要素 ・とらえる ・結びつける ・見いだす 	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業記録 ② 道徳ワークシートの記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童の発言や交流の記録により、意識の状況を分析し考察する ② 【表4】の分析基準により分析し、考察する
	<ul style="list-style-type: none"> ・構成要素 ・とらえる ・結びつける ・見いだす 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙法(評定尺度法)により指導実践の事前事後に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・χ^2検定により意識の変容状況を分析し、考察する

【表4】 分析基準

検証内容	分析基準		
	A	B	C
とらえる	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の主人公や他の人の気持ち、考えをその人の立場に立って考え、具体的に自分の考えを書いたり、話したりしている ・今までの自分の生き方や考え方のよさや問題点に気づき、具体的に自分の考えを書いたり、話したりしている ・道徳的価値が大切なものがあり、自分にとって必要なものであると気付いた自分なりの考えを書いたり、話したりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の主人公や他の人の気持ちや考えから、感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている ・今までの自分の生き方や考え方から感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている ・道徳的価値が大切なものであると感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の主人公や他の人の話から読み取ったことを書いたり、話したりしている ・今までの自分の行動についてのみ書いたり、話したりしている ・道徳的価値の大切さについて漠然と書いたり、話したりしている
結びつける	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の主人公とこれまでの自分の生き方や考え方の似ているところや違っているところをみつけて、具体的に自分の考えを書いたり、話したりしている ・似たような自分の体験を想起して、そのときの行動と気持ちや考えを具体的に書いたり、話したりしている ・他の人の生き方や考え方とこれまでの自分の生き方や考え方の似ているところや違っているところをみつけて、具体的に自分の考えを書いたり、話したりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の主人公の生き方や考え方から、感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている ・似たような自分の体験から感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている ・他の人の生き方や考え方から感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の主人公や自分の生き方や考え方に似ていないことを書いたり、話したりしている ・他の人の生き方や考え方とは、異なることを書いたり、話したりしている
見いだす	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値がもたらす心地よさを自分も求めようとすることを書いたり、話したりしている ・よりよい生き方や考え方を選んで、望ましい方向へ変わった自分なりの考えを書いたり、話したりしている ・これまでの自分の生き方や考え方の課題をみつけ、それを解決するためにこれからの自分が目指そうとする生き方や考え方を具体的に書いたり、話したりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている ・よりよい生き方や考え方を選んで感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている ・これまでの自分の生き方や考え方から、自分が目指そうとする生き方や考え方を書いたり、話したりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値とは、異なる価値について感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている ・自分の考えについてのみ書いたり、話したりしている ・学んだことから感じたことのみを書いたり、話したりしている

第1時では、「とらえる」に関して記述した児童7人、「結びつける」に関して記述した児童12人であった。そのうち、A段階が1人であった。どちらもB段階が多く、学んだ道徳的価値と照らし合わせて感じたことや考えたことを記述していた。これは、書く活動において「とらえる」についての考える観点が、児童にとって分かりにくかったためと考える。また、「結びつける」については、自分の体験を想起して自分の行動について書いていたが、行動からの考えや気持ちを書くまでに至っていない。これは、書く活動において考える観点を明確に提示できなかったため、児童が書く内容を十分にまとめられなかったと考える。



【図3】 「とらえる」「結びつける」の状況

うごく段階において、発問の工夫や意図的指名を行ったことで共感的に理解することができたからと考える。さらに、考える観点に、そのときの気持ちを考えさせる観点を入れたことによると考える。

第3時では、「とらえる」に関して記述した児童1人、「結びつける」に関して記述した児童18人であった。そのうち、A段階が8人であった。「結びつける」に関して記述した児童が多かったのは、

【表5】主な記述例

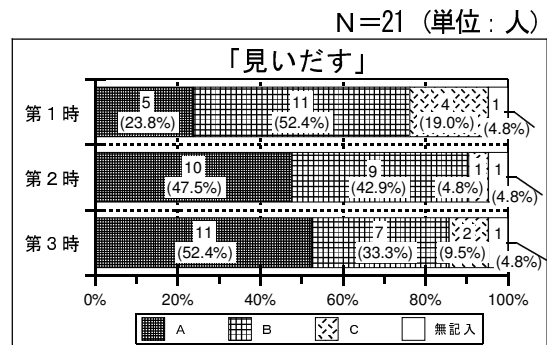
	A	B
とらえる	○ お母さんに「勉強しろ、勉強しろ」と言われたときに、やだとか言ってしまった。お世話になったことは、毎日、いっぱいありすぎて書ききれなくなるほどだけど、(気持ちは)毎日ありがとうと言っている。泣きたくなくなるくらい、毎日ありがたうって感じがあった。 (7人)	○ 自分の部屋が散らかっていて、「片づけなさい」と言われたときに無視をして、2、3日そのままにしていた。4日目になってやっぱり片づけなければいいと思った。 ○ 野球の練習で「毎日やれ」と言われたことを、ゲームをやっていてやらなかった。やらなければダメとは思っていたけれど、やらなくていいやと思っていた。 (10人)
結びつける	○ ぼくも野球をやっています。だけど、イチローは練習量がけたちがいです。ぼくはイチローみたいな練習量をやっていないけど、学校が終わっての練習は頑張っています。その練習のおかげで、試合ではいるな大会に出ています。だけど、1回戦などで負けてしまうので、練習をどんどん重ねて1回でもいから郡大会などで優勝したいです。 (12人)	○ 家で手伝ってと言われて、その時ちょうどテレビを見ていて、(なんでだよ)と思った。手伝いはやったけど、早く終わらせよう終わらせようと思ってやっていた。 ○ ほとんど明のようにいやいや仕事をやっていて、ほとんど適当にやっていた。洗濯物をたたむときにやっていた。 (28人)

【注】1 ()内の人数は、全3時間の指導実践の分析結果の児童数を表し、以下も同様とする。
【注】2 ゴシック体は、Aと判断する根拠となった部分を表し、以下も同様とする。

して、価値について考えるきっかけを設定したことにより、児童にとって振り返りやすかったからと考える。「とらえる」に関しての記述が少なかったのは、心がうごく段階で既に共感することが多く、自分の体験と結びつけることができたからと考える。

【図4】は、道徳ワークシートの記述内容から「見いだす」について、【表4】の分析基準によって判断したものをまとめたものである。【表6】は、主な記述例をまとめたものである。

第1時では、A段階が5人、B段階が11人、C段階が4人、無記入が1人であった。特に、C段階が4人という結果だったのは、一回目ということもあり、活動に対する戸惑いが見られたことによると考える。また、ねらいとする尊敬・感謝は、人間関係を基にした日常生活において心掛けなければならない基本的な精神であるから



【図4】「見いだす」の状況

からこそ、その奥底に流れる様々な価値からの記述が表れたものとする。これは、心にひびく段階でねらいとする道徳的価値についての交流が焦点化されずに、似ているところと違っているところをみつけるだけで活動が進んだことによると考える。

第2時では、A段階が10人、B段階が9人、C段階が1人、無記入が1人であった。これは、資料の主人公の生き方や考え方を今までの自分と結び付け、共感的に理解することができたこと、今の自分に満足することなくさらに向上しようとする、児童のよりよい生き方を目指そうとする思いが見いだされたことによると考える。さらに、【資料1】にある道徳ワークシートの記述内容からは、自分の

頑張りを肯定的に受け止めていることがうかがえる。これは、他の人の生き方や考え方から自分にとって大切なことであると感じ、受け止めることができたからと考える。

第3時では、A段階が11人、B段階が7人、C段階が2人、無記入が1人であった。これは、自分を省みたことにより、

【表6】主な記述例

	A	B
見いだす	○ お母さんに風呂掃除を頼まれて、面倒くさかったけど、やって意外ときれいになったからよかったと思う。これからも頼まれたことをやったり、自分から進んで仕事などをやっていきたい。 ○ まだ6年生が引退してないときに、家で練習しなくちゃいけないんだけど、面倒くさかったからあまりやらなかった。そのときは「つかれた」と言って少ししか練習しなかった。 このごろソフトボールや陸上練習など、いろいろ頑張っている自分だけど、これからもめげずに、最後までやり抜く自分のいいところをもっと生かして行って、何事にも全力をつくして頑張る。 ○ 部屋が散らかっていて母さんに「部屋を片づける」と言われて、無視したり、「うるさいな」など言ったりしたけど、本当はありがとうと思ってたけど、ありがとうと言うことができなかった。 これからのぼくは、人からこうしたらなど言われたら、ちゃんと「ありがとう」や「わかった」などちゃんと言うようにしたい。 (26人)	○ やまびこを配るのを頼まれて、やったことがある。そのとき、面倒くさかったけど、やってみて楽しかった。 これからはいやがらずに頼まれた仕事をやる。 ○ 私が今まで頑張ってきた中で一番頑張ったと思うことは、絵を描くことです。4年生のとき、Mちゃんと腕相撲をしている絵を描きました。今まで描いた絵の中で一番いい絵を描くことができました。その絵は、校長先生の部屋の前にあります。これからの私は、頑張れることはもっと頑張れるようになると思います。これからもっと頑張ってください。 ○ お母さんにいろいろなことを教えてもらったりしました。お世話もいろいろしてもらいました。だけど注意などされると「うるせー」とおこったりしてしまいました。 これからはお世話してもらったり、注意されたらむしゃくしゃしない。 (27人)

よりよく生きようとする自己の内面から自分を見つめ直すことができたからと考える。このことは、【資料2】の児童C1のように、面倒くさいと思った活動でも価値がもたらす喜びに気づき、そのことを求めようとする自分なりの新たな考えをもつことができたことから分かる。

イ 意識の変容状況について

【表7】は、意識の変容状況をみるための事前事後調査の結果をまとめたものである。その結果、全ての設問に有意差が認められた。

「とらえる」については、資料の主人公の気持ちと自分の体験の心情を重ね合わせるための発問の工夫、心のアルバムを活用した体験の振り返りによる児童の実態把握と意図的指名による多様な価値観を引き出すことにより、道徳的価値を自分にとっても大切なものであると共感的に理解することができたためと考える。

「結びつける」については、児童の日常生活や学校における様々な体験での感じたことや考えたことを想起させるための手だて、今までの自分の生き方や考え方を省みて道徳ワークシートに書く活動、自分の考えと他の人の考えを比較し、交流する活動により、道徳的価値を自他とのかかわり関係付けることができたためと考える。

「見いだす」については、書く活動や交流する活動をとおして自分の心を見つめ直し、今までの自分の生き方や考え方について気付くことができ、心の中にいるもう一人の自分のよりよく生きようとする思いを見いだすことができたためと考える。

これまでア、イで述べたことから、ねらいとする道徳的価値と自分の体験を結びつけることにより、今までの自分の生き方や考え方に気付くことができたと考え。また、書いたものを基に交流することにより、自分の考えと他の人の考えを比較することができ、お互いの考えのよさを認め合うことができたと考え。さらに、道徳ワークシートに書いたことや交流をしたことから、これからの自分についてみつめることにより、よりよい生き方を目指そうとする思いをもつことができたと考え。

以上のように、自分との対話を深める書く活動により、道徳的価値の内面的な自覚の深まりの構成要素である「とらえる」「結びつける」「見いだす」が高まったと考える。しかし、価値の追究・把握の際に、ねらいを焦点化した話し合いを行い、書く活動において考える観点を明確にすることが、道徳的価値の内面的な自覚を深める上で必要である。

したがって、書くときの発問や指示の工夫が課題となるが、自分との対話を深める書く活動が、概ね道徳的価値の内面的な自覚を深めるのに効果があったと考える。

6 道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する研究のまとめ

道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方について、成果と課題をまとめる。

(1) 成果

ア 「自己の内面を省みて、自分の生き方や考え方を書く活動」にかかわっては、道徳ワークシートや心のアルバムを活用することで、ねらいとする道徳的価値と自分の体験を結び付けて考え、自分自身のかかわりで書くことができたこと。

【表7】道徳的価値の内面的な自覚の深まりの変容状況 N=21(単位:人)

設問構成	設問内容	事後 事前	+	-	合計	χ^2 の値
とらえる	1 道徳の時間に、資料の主人公や友達か考えたことは、自分にもあることだと思いますか。	+	9	0	9	12.00 *
		-	12	0	12	
		合計	21	0	21	
とらえる	2 道徳の時間に、資料の主人公や友達か考えたことは、他の人にもあることだと思いますか。	+	14	0	14	5.14 *
		-	7	0	7	
		合計	21	0	21	
とらえる	3 道徳の時間、考えたり、話し合ったりしていることが、自分にとって大切なことだと思いますか。	+	9	1	10	8.33 *
		-	11	0	11	
		合計	20	1	21	
結びつける	4 道徳の時間に、資料の主人公と似ている気持ちや考えが、自分にもあると思いますか。	+	9	0	9	12.00 *
		-	12	0	12	
		合計	21	0	21	
結びつける	5 道徳の時間、似たような自分の体験を思い出し、そのときに感じたこととくちがみから考えますか。	+	9	0	9	12.00 *
		-	12	0	12	
		合計	21	0	21	
見いだす	6 道徳の時間、他の人の考えと「似ているなあ」「違っているなあ」とくらべながら考えますか。	+	8	1	9	9.31 *
		-	12	0	12	
		合計	20	1	21	
見いだす	7 道徳の時間に、自分になかった考えや気持ちを見つめようと思えますか。	+	8	1	9	9.31 *
		-	12	0	12	
		合計	20	1	21	
見いだす	8 道徳の時間に、自分なりの考えをもとうと思えますか。	+	14	0	14	5.14 *
		-	7	0	7	
		合計	21	0	21	
見いだす	9 道徳の時間に、自分の考えをはっきりさせて生活しようと思えますか。	+	8	0	8	13.00 *
		-	13	0	13	
		合計	21	0	21	

【注】1 事前調査は9月9日、事後調査は9月29日実施したものである。

【注】2 調査は四択選択のア、イは+反応、ウ、エを-反応とし、ア、エを各々強い反応とした。

【注】3 χ^2 検定で用いた公式は次に示すとおりである。

$$b+c > 10 \text{ のとき、 } \chi^2 = \frac{(b-c)^2}{b+c}$$

$$b+c \leq 10 \text{ のとき、 } \chi^2 = \frac{(|b-c|-1)^2}{b+c} \quad (\text{イエーツの修正式})$$

なお、bは+反応から-反応に変わった数、cは-反応から+反応に変わった数を表す。

【注】4 χ^2 の値の欄の*は、 χ^2 検定において有意水準5%で有意差があることを示す。

イ 今までの自分自身の考え方や行動の在り方を具体的にみつめ直したことから、これまでの自分の生き方や考え方に気付くことができたこと。

ウ 「書いたものを基に自分の考えと他の人の考えを比較し、よさを認め合う交流」にかかわっては、自分の問題点に気付くこと、自分や他の人のよさに気付くことができ、ねらいとする道徳的価値について自分にとって大切なもの、必要なものと受け止めることができたこと。

エ 「よりよい生き方を目指すことについての自分の思いを書く活動」にかかわっては、これからの自分が目指そうとする生き方や考え方を見いだすことができ、自分自身の新たな決意をもつことができたこと。

(2) 課題

ア 書く活動において、考える観点をねらいとする道徳的価値に沿ってより明確にし、具体的な記述ができるような発問や指示の仕方を考えること。

イ よさを認め合う交流において、お互いの考え方の違いをはっきりさせる工夫が必要であるとともに、共感し合ったり対立し合ったりする話し合いができるような交流の仕方を考えること。

以上のことから、小学校道徳教育において、自分との対話を深める書く活動を進めることは、道徳的価値を自分自身とのかかわりでとらえることに役立つと考える。また、自己の内面にあるよりよく生きようとする思いと結び付けやすくさせ、よりよい生き方を目指そうとする思いを見いだすことを促し、道徳的価値の内面的な自覚を深める上で有効であると考えられる。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、自分との対話を深める書く活動をとおして、道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方を明らかにし、道徳の時間の充実に役立てようとするものである。そのために、道徳的価値の内面的な自覚を深める道徳の時間の指導の在り方に関する基本構想を立案し、手だての試案に基づく指導実践により、自分との対話を深める書く活動についての手だての試案の妥当性を検討してきた。研究の結果、仮説の有効性を確かめることができた。

2 今後の課題

本研究で明らかにしてきたことを更に生かしていくための改善点として、書く活動において、一人一人がねらいとする道徳的価値に迫れるような発問や指示の仕方を考えること、よさを認め合う交流において、ねらいとする道徳的価値の必要性が深まるような交流の仕方を考えることが必要である。

【引用文献】

文部科学省 「心のノート 小学校5・6年」 2002年

【参考文献】

金井 肇著 「こうすれば心が育つ いま望まれる道徳教育」 小学館 2003年

金井 肇・全国道徳授業実践研究会編著

「構造化方式に基づく『心のノート』を生かす道徳授業 小学校高学年」 明治図書 2003年